

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	なごやだいがくきょういくがくぶふぞくちゅう・こうとうがっこう						②所在都道府県	愛知県
27～31	①学校名	名古屋大学教育学部附属中・高等学校						府県	
③対象学科名	④対象とする生徒数（2015.2.3 現在）							⑤学校全体の規模	
	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年	計	併設型中高一貫高(中学各学年2クラス、高校各学年3クラス)中学240名、高校358名、合計598名	
普通科(男)	40	40	40	59	54	56	289		
(女)	40	40	40	64	64	61	309		
⑥研究開発構想名	トップ型SGUと一体化して「自立した学習者」を育てる探究型カリキュラム構築								
⑦研究開発の概要	本構想は、本校の規定するグローバル・リーダーである「自立した学習者」の育成を目標とし、以下三つの研究開発を行う。Ⅰ)必修「総合人間科」の仮説検証型探究カリキュラムへの再構築。Ⅱ)理解・思考型学習「協同的探究学習」による学習方法の開発。Ⅲ)国内外グローバル拠点を活用した論理的表現力を高める教育方法の開発。以上を名古屋大学と一体化して実施し、高大接続の「名古屋大学モデル」発信を目指す。								
⑧研究開発の内容等	<p>(1) 目的・目標</p> <p>本構想の目的は、グローバル化が進んだ世界で活躍する「<u>自立した学習者</u>」を育てることである。「<u>自立した学習者</u>」とは、ものごとの本質を地球規模で捉え、自分の力で探究し続ける勇気と判断力のある人間であり、本校の規定するグローバル・リーダー像である。この目的のため、本校はトップ型SGUである名古屋大学と一体化し、探究型カリキュラムの開発と構築を目指す。以下の三点を目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球的課題に取り組むことで国際的視野を持ち、ものごとの本質を捉え、既存の問題と潜在的な問題の発見を行い、論理的・多角的に考える力を持ち、探究し続ける生徒の育成。 ・個別探究と集団による探究を通して、他者と協同して問題解決ができる国際的素養を身につけた生徒の育成。 ・自らの考えを適切な方法で論理的に他者に表現し、勇気と判断力のある生徒の育成。 <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校でカリキュラム開発した「総合人間科」は、生徒の進路選択や大学での学びに繋がる事例も多く、成果をあげているが、一年単位の学習のため探究を今以上に深めにくい(Ⅰ)。本校はSSH指定を機に、理系科目を中心に「協同的探究学習」を取り入れた結果、理系生徒の思考力、表現力などが向上した。一方、文系生徒の伸びは高くない。この学習法を理系科目中心に展開したためと考えられる(Ⅱ)。本校はSGHアソシエイトとしての活動、ユネスコスクールとしてのESD実践の他、学校の国際化に尽力し、海外提携校との交流や交換留学生受け入れに積極的である。しかし現状では生徒交流で終始し、英語による探究活動に至っていない(Ⅲ)。以上の課題解決のため、三つの研究開発を行う。</p> <p>Ⅰ) 6年間必修科目「総合人間科」の仮説検証型探究カリキュラムへの再構築</p> <p>一年単位の学習方式から6年一貫型のカリキュラムとし、PBLに基づく仮説探究型の学びにする。国際バカロレアのTOKを取り入れ、仮説検証に必要な批判的思考力を育て、探究型学習に役立てる。これらにより「自立した学習者」が育つ。</p> <p>Ⅱ) 理解・思考型学習「協同的探究学習」による学習方法の開発</p> <p>SSHの成果を受け「協同的探究学習」を文系・実技系教科に拡大し、個別探究と集団での探究を行う。これにより国際的素養が獲得され、協同的な課題発見力・解決力が高まる。</p> <p>Ⅲ) 国内外グローバル拠点を活用した論理的表現力を高める教育方法の開発</p> <p>国内拠点で他校生徒、留学生らと、海外拠点で現地校の生徒と、地球的課題の解決方法</p>								
	⑧-1全体								

	<p>を考える協同プロジェクトを行う。これらを通し、英語での論理的表現力、課題解決力が高まる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>SGH 研究成果発表会を催し、成果を発信する。研究成果を紀要にまとめ、関係機関に配布し、成果の普及を図る。生徒の各種コンテスト・発表会への参加を奨励し、生徒を通じて成果を発信する。海外拠点での課題研究については現地で成果報告会を行う。幹事校が運営している SGH 専用ホームページも積極的に活用し、SGH 校と情報を共有する。</p>
<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>併設型中高一貫 6 年間の教育課程を通し、「自立した学習者」を育成することを目的に、I)必修科目「総合人間科 (課題探究 I・課題探究 II)」、II)「協同的探究学習」、III)国内外グローバル拠点の効果的活用法の開発、以上三つ研究開発単位で実施する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>「総合人間科」：中学では「生き方を探る」「生命と環境」「国際理解と平和」をテーマに、幅広い興味関心を養い、専門家へのインタビューなどを通じ、個人・グループ単位で研究をする。段階的に仮説検証型課題を取り入れ、高校での研究の基礎を築く。高校では地球的課題に対応する六つの研究領域（生命、自然と環境、心、人権と共生、平和、文化）を設け、仮説検証型課題探究を行う。パフォーマンス評価や、ポートフォリオ評価を行い、地球的課題への理解や課題解決への考えを持てたかを検証する。</p> <p>「協同的探究学習」：SSH で成果があった学習法を文系教科・実技系教科に広げる。この学習では、教師が設定した多様なアプローチが可能な課題に対し「思考プロセスを明らかにする個人探究場面 I」「多様な考えを比較検討する協同探究場面」「知識の関連づけから問題の本質をつかむ個別探究 II」の三段階を踏んで学習する。アンケートによる量的調査と記述問題による質的調査を行い、生徒の理解・思考が深まったかを検証する。</p> <p>「国内外グローバル拠点」：名古屋大学に国内グローバル拠点を置き、大学教員、留学生、他校生徒と地球的課題の解決方法を討論する Global Discussion を実施し、課題解決力向上をはかる。アジア拠点（新モンゴル高校）、北米拠点（East Chapel Hill High School）を活用し、現地高校生と協同して課題研究・発表を行う。生徒へのアンケート調査と生徒の発表内容から、論理的表現力が向上したか、課題解決力が高まったかを検証する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 なし</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>留学生 TA を交えた少人数集団で世界的課題を討論する課外講座、Active Learning in English を実施する。テーマは毎回異なり、大学教員からテーマについて講義を受け、集団で解決策を討論し、発表と振り返りをする。全活動を英語で行う。毎回のレポートと討論内容を TA と検討し、英語による情報分析・発信力、課題解決力が高まったかを検証する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 なし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <p>トップ型 SGU 名古屋大学の資源を活用し、大学の英語力向上プログラムや初年次教育の講義へ本校生徒を参加させる。SGH 生徒研究員制度により、国際的活動を行う生徒を増やす。コミュニケーション力向上プログラムとして、ESD コンソーシアムなど三プログラムを活用し、初対面の人と協同で課題解決を図る機会を作る。校内で流鏑馬や日本礼法教室などを開催し、日本で生活する生徒としてのアイデンティティを育成する。JICE など公的機関との連携し、高校生・教員を本校に招き、協同課題解決などのプログラムを実施する。Global Education Center を設置し、留學生徒を支援する。名古屋大学と連携し、高校、大学入学者選抜の一体的改革を行い、名古屋大学モデルを発信する。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>スーパーサイエンスハイスクール（2 期、平成 18 年～平成 27 年度）、「国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究」（平成 25 年～平成 26）「SGH アソシエイト」（平成 26 年度）で培った研究成果を活用し、名古屋大学と一体となってグローバル人材の育成を目指す。JICE、AFS、YFU を通して、長期・短期留学生を毎年 100 名以上受け入れている。昨年は海外研究者・教員の訪問を 50 名以上受け入れた。</p>

ふりがな	なごやだいがくきょういっくがくぶふぞくちゅうこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	名古屋大学教育学部附属中・高等学校		

平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	150人
	SGH対象生徒以外:	76人	91人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 高校の課題研究が定着することによる波及効果を見込んだ数字。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	60人
	SGH対象生徒以外:	56人	42人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: プロジェクトの機会を通じて一定数の生徒が海外研修を行う体制を整えるが、自発的な留学については家庭の経済事情などに負うところが多い。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:	%	56%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 初期値は高いが、SGHプログラムの導入によってさらなる向上を目指したい。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	35人
	SGH対象生徒以外:	15人	26人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: SGHプログラムを通じて、様々な応募機会を紹介して入賞を目指す(分母は全校生徒600人)。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	20%
	SGH対象生徒以外:	%	10%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: Active Learning in Englishなどの英語力強化プログラムに参加する生徒を増やしていく。									
英語でプレゼンテーションをしたり、英文でエッセイをまとめたことのある生徒の数									
f	SGH対象生徒:								80人
	SGH対象生徒以外:	29人	47人						
目標設定の考え方: 海外プロジェクトやグローバルコミティーなどの場で、話す力・表現する力を実践的に養っていく。									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標									
		25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	33%	8% (2月1日時点)	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: SGHプログラムにより国際化に重点を置く大学が進学先として選ばれていくであろうこと、国際化に重点を置く大学が増えることの相乗効果を見込んでいる(SGU指定校・グローバル人材育成推進事業指定校進学者をまとめた数字)。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	4人
	SGH対象生徒以外:	2人	2人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 家庭の経済事情などに負う部分が多いが、サポート体制を整えていくことで漸増を目指す。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 既存の総合人間科が進路選択に与える影響はすでに大きいものがあるが、それらを整備することでさらに向上を目指す。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	40人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 以前に行った卒業生の追跡調査の結果を踏まえつつ、SGHプログラムの影響を受けた今後の卒業生の数を加算した。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	19人	20人	人	人	人	人	人	30人
	目標設定の考え方:「モンゴル・プロジェクト」「ノースカロライナプロジェクト」等に参加する生徒数(分母は、高校1・2年生240人)。							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	人	人	人	人	人	人	人	480人
	目標設定の考え方:総合人間科では、高校1年生以外の生徒全員が研究分野の専門家・職場などへのフィールドワークを行う。							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	3校	3校	校	校	校	校	校	6校
	目標設定の考え方:現在行っている大学・高校との交流を基軸にしつつ、テレビ会議などの方法で連携のすそ野を広げていく。							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	10人	77人	人	人	人	人	人	100人
	目標設定の考え方:課題研究の聞き取り調査(生徒数×1回)および留学生招聘の概数。							
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	10人	7人	人	人	人	人	人	30人
	目標設定の考え方:グローバルキャリアシンポジウムにおける講師(15人)および課題研究の聞き取り調査(生徒数×1回)。							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	1人	3人	人	人	人	人	人	10人
	目標設定の考え方:SGHプログラムを通じて、様々な応募機会を紹介して入賞を目指す(分母は全校生徒600人)。							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
	10人	9人	人	人	人	人	人	11人
	目標設定の考え方:これまでに行ってきた帰国生徒入試に加え、AFS、YFU等からの帰国・外国人留学生の受け入れ体制ができつつあることと、本校のキャパシティを考慮して。							
h	先進校としての研究発表回数							
	4回	5回	回	回	回	回	回	7回
	目標設定の考え方:本校主催での研究会もしくは本校外での研究会での発表に加え、SGH関連の研究会における発表回数を加味した。							
i	外国語によるホームページの整備状況							
	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
		×						○
	目標設定の考え方:							
j	海外からの教育研究者、教員、学生・生徒の訪問受け容れ数							
	213人	165人 (12月末)						230人
	目標設定の考え方:これまでの数値に、SGHプログラム実施に伴う訪問者数の増加を加味した。							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	597	598	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							